

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 高須 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学・理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

高須 中学校「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、数学A・B、理科)結果

		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
平成 2 5 年度	本市	74.7	65.0	60.3	38.2	
	全国	76.4	67.4	63.7	41.5	
平成 2 6 年度 (理科：平成24年度)	本市	77.2	47.6	62.4	54.4	48.6
	全国	79.4	47.6	67.4	59.8	51.0
平成 2 7 年度	本市	73.9	63.1	61.6	37.7	50.0
	全国	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体の平均正答率は全国をやや下回っているが、昨年度よりもかなり改善されている。複数の問題で全国平均を上回っており、また、下回っているもののその差がごくわずかという問題も多い。 漢字の読み書き問題は無解答率が高かった。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	文脈に即して漢字を正しく書く問題の無解答率が高く、単語の類別について理解する問題の正答率が低かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの問題で全国平均正答率を下回っていた。なかでも自分の考えを書く問題に課題がある。 要旨を捉える問題は全国平均をわずかに上回っており、資料を活用する問題も比較的正答率が高いなど、文章の全体像をつかむ力の定着率は高いといえる。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	効果的な資料を作成し、活用して話す問題は正答率が比較的高く、文章の中心的な部分と付加的な部分などを読み分け、要旨を捉える問題は正答率が全国を上回っていた。	
	努力が必要な問題	複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く問題と、文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く問題のどちらも、正答率が低く、無解答率が高かった。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は全国を下回っているが、その差は昨年度より少し縮まっている。また、正負の数が混ざった計算や方程式を解く問題など、きまりに従って解く問題では、正答率が全国平均を上回っている。 中央値や確率などの問題は正答率が低く、反復練習の必要がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	加減乗除を含む正の数と負の数の計算において、計算のきまりに従って計算する問題や、小数を含む一元一次方程式を解く問題は正答率が全国平均を上回った。	
	努力が必要な問題	数量の関係を文字式に表す問題や、連立二元一次方程式の問題など、反復練習の必要がある問題は無解答率が高かった。	

数学B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの問題で平均正答率が全国を下回っているが、関数に関する問題は、比較的その差が小さい。 資料を活用する問題や図形に関する問題の平均正答率で全国との差が大きく、本校の課題である。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	問題場面における考察の対象を明確に捉える問題は比較的正答率が高く、また、関数の問題では正答率が全国平均をわずかに上回ったものもあった。	
	努力が必要な問題	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理する問題では、無解答率が高く、正答率も全国との差が最も大きかった。	

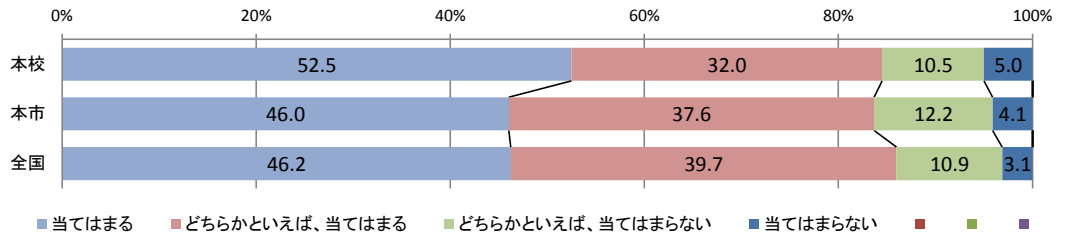
理科	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 知識に関する問題や地学的領域の問題の正答率は、全国との差が大きい傾向があった。 3分の1以上の問題で無解答率が全国よりやや下回るか同じであり、粘り強く問題を解こうとする意識は伺える。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	化学変化についてグラフを分析して解釈する問題では、比較的正答率が高く、全国との差も比較的少ない方であった。	
	努力が必要な問題	天気の記事から風力を読み取る問題や、オームの法則を使う問題では、無解答率が全国よりかなり高く、正答率も全国との差が大きかった。	

③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

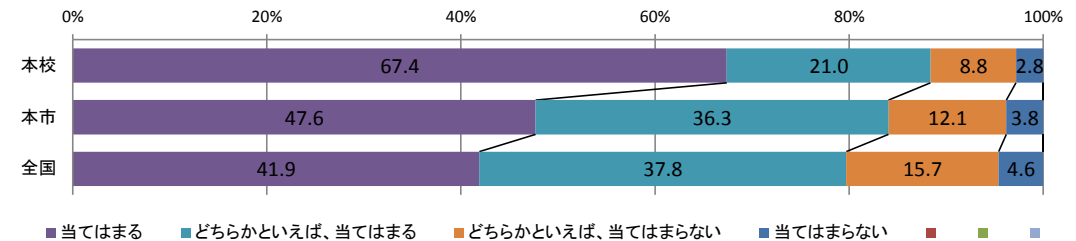
38

授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。



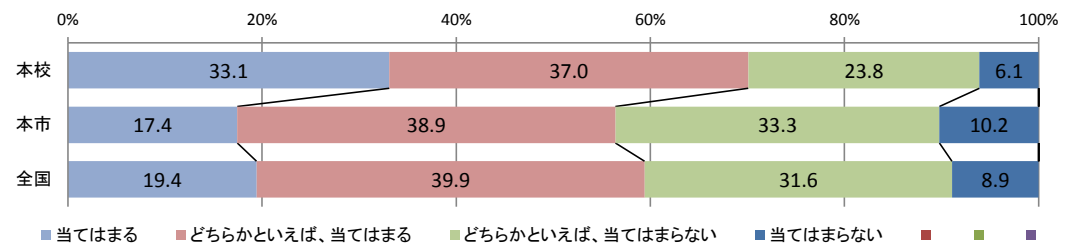
41

授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか。



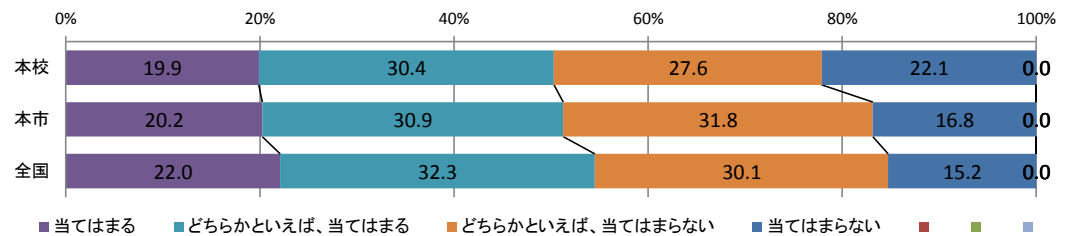
42

授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。

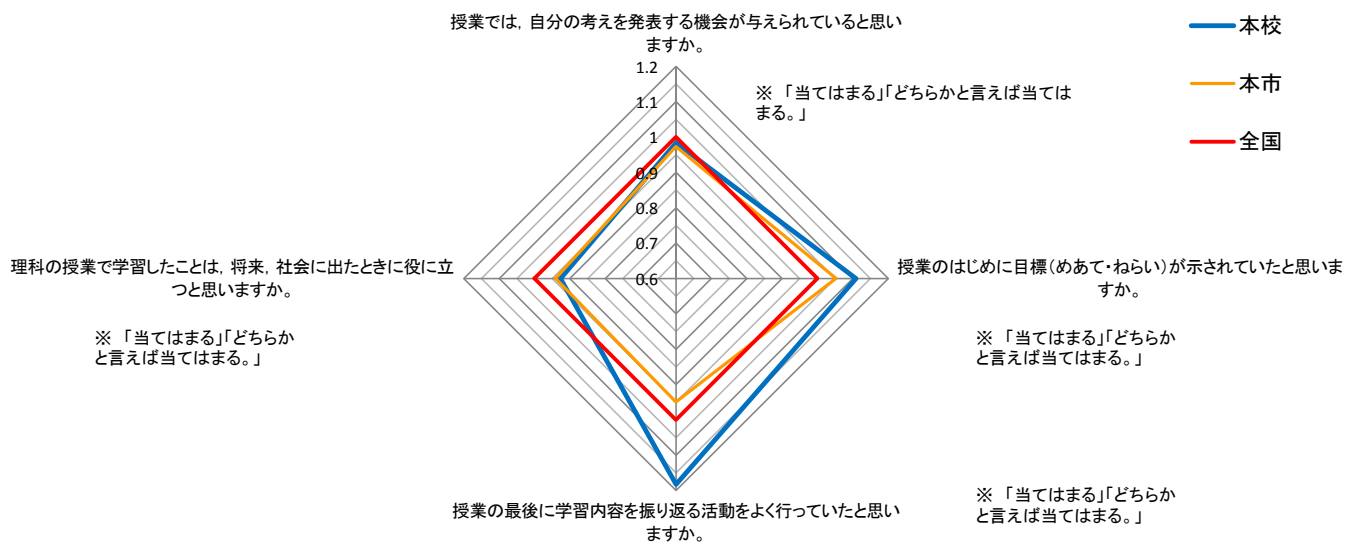


74

理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



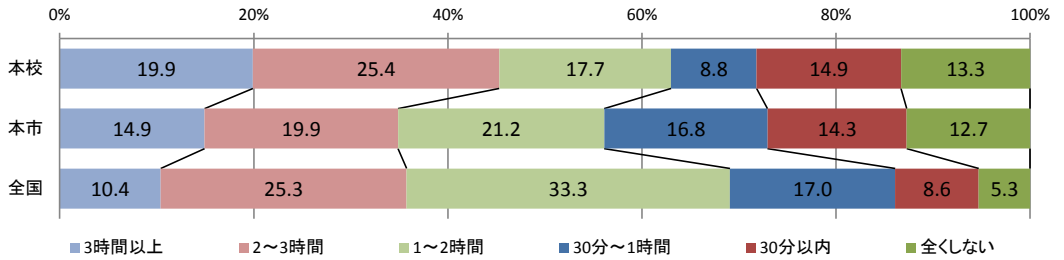
⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

- ・発表する機会が与えられていると答えている生徒は毎年増加しており、全国と比較してもほぼ変わらない。今後も授業のなかで発表の機会を確保していく。
- ・職員が校内研修会等で、授業のはじめに目標(めあて・ねらい)を示すことや、授業の最後に振り返りを行うことの重要性を確認していった結果、生徒にもその意図が十分浸透してきている。
- ・現在学習していることと自分の生活の関連性に気づけていない生徒が全国よりも若干多めである。単なる受験のためだけではなく、学習内容と身の回りの生活や世の中の諸事象とのつながりに気づかせることで、学習意欲を向上させていく必要がある。

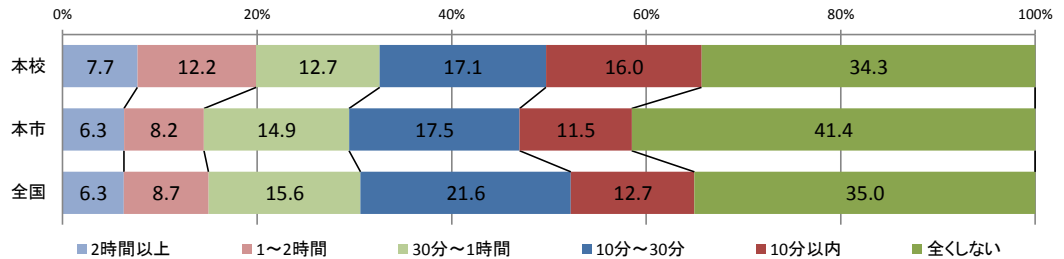
2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果

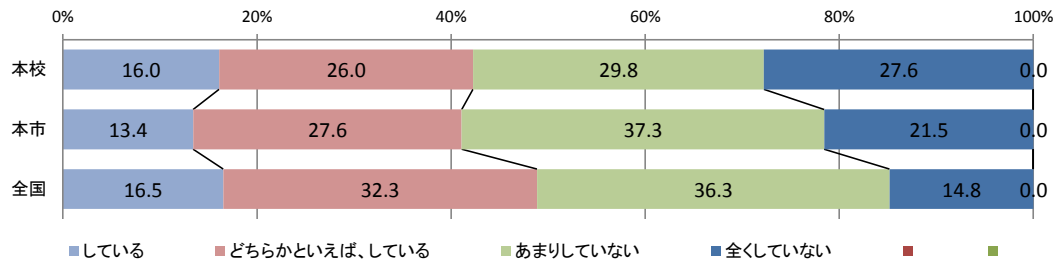
13
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



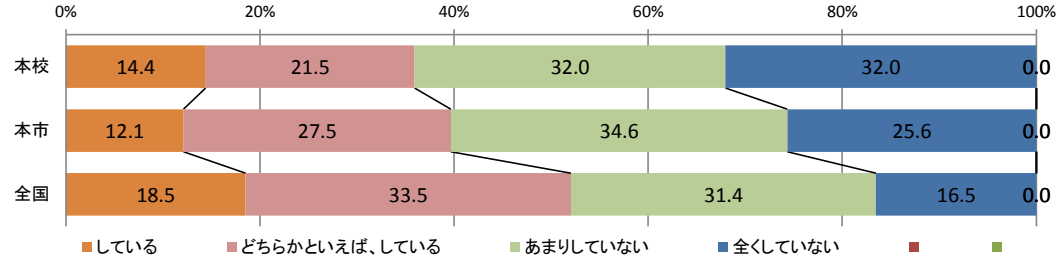
16
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)



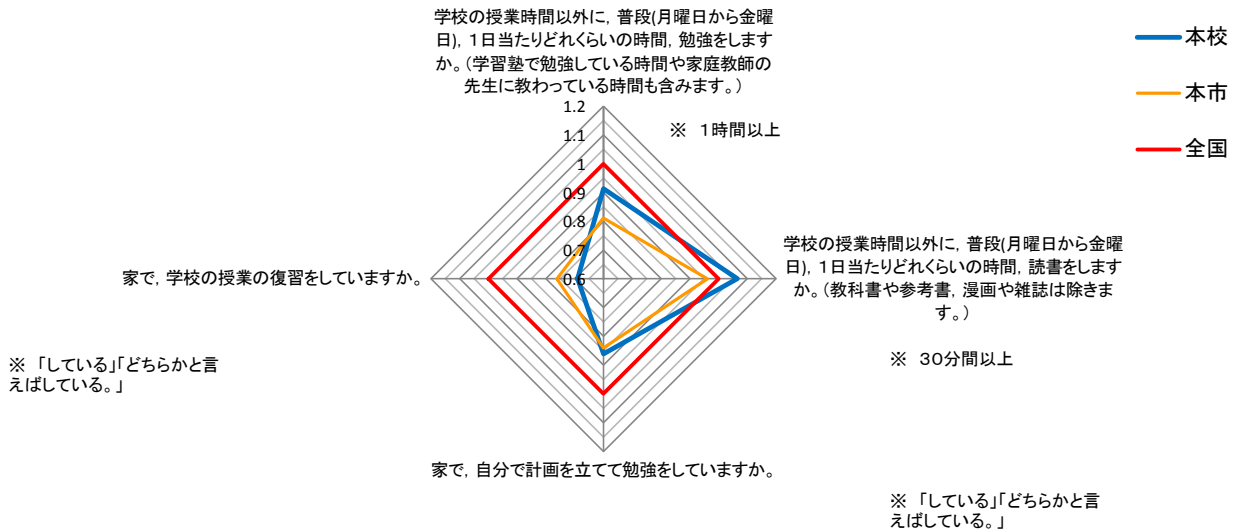
20
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



23
家で、学校の授業の復習をしていますか。



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



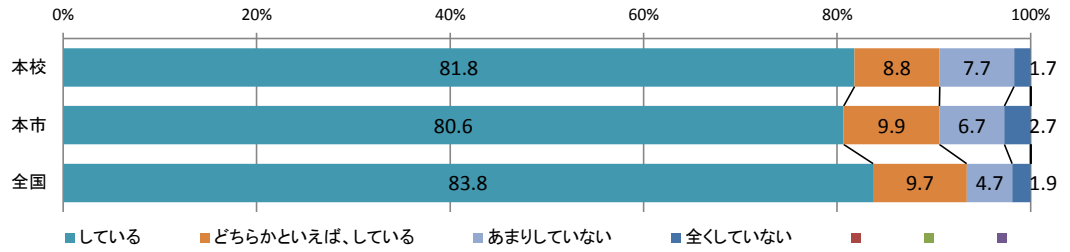
③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

・学校の授業以外に1日2時間以上学習している生徒の割合は全国よりも多いが、逆に、全くしない、または30分以内という生徒の割合も全国よりかなり多く、学習時間が2極化している。また、家で学校の授業の復習を全くしていない生徒、自分で学習計画を立てない生徒の割合も全国より高く、自主的な学習活動が家庭であまり行われていないことが伺える。

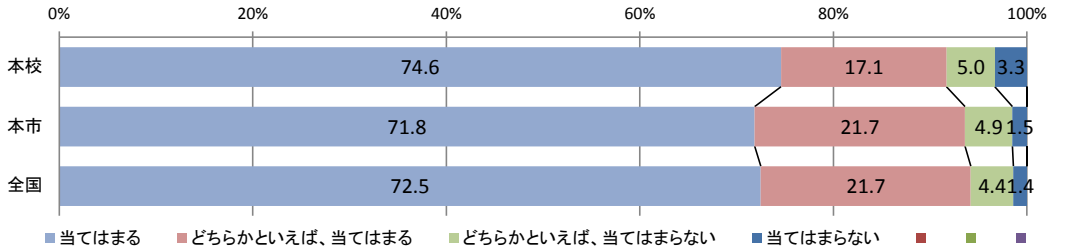
・1日の読書時間が比較的長い生徒の割合は全国よりも多く、年々増加している。朝読書の取組等が日常生活にも浸透していることが伺える。しかし、授業以外で読書を全くしない生徒の割合も年々増加しており、本年度は全国とほとんど変わらない。図書室の充実だけでなく、保護者とも連携しながら、読書環境を改善していく必要がある。

④ 生活習慣等に関する調査結果

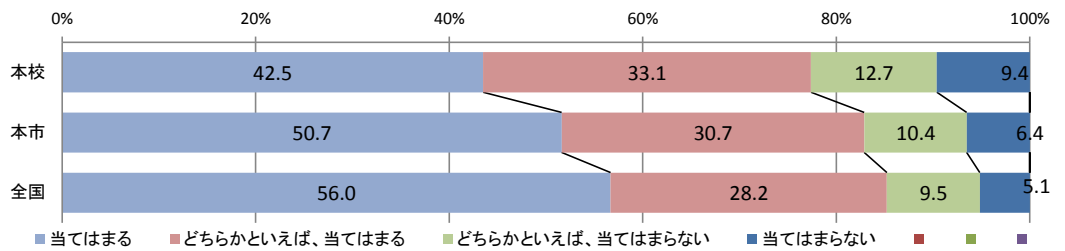
1
朝食を毎日食べていますか。



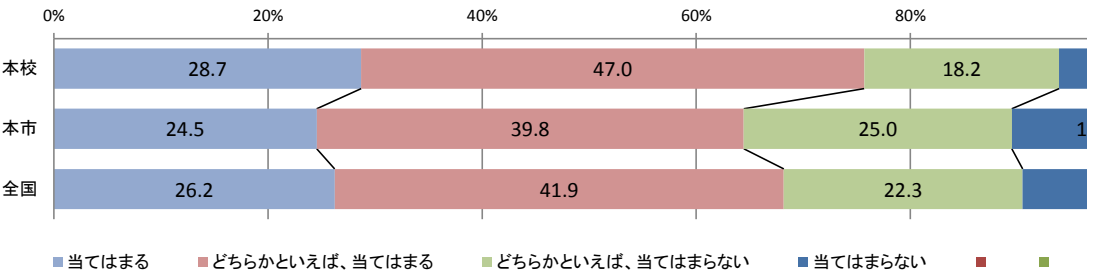
4
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。



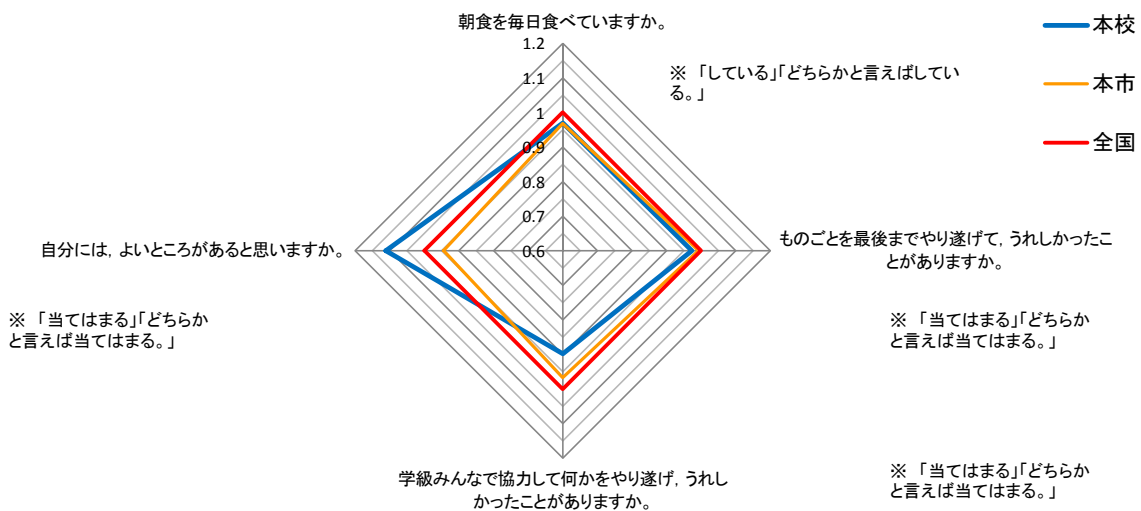
26
学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。



6
自分には、よいところがあると思いますか。



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果から分析される傾向

・朝食を食べている生徒の割合は全国と比較してもあまり変わらないが、あまり食べていない、もしくは全く食べていない生徒の割合が僅かずつではあるが毎年増加しているの、保護者への呼びかけをしていきたい。

・ものごとを最後までやり遂げて達成感や成就感を味わった経験のある生徒はかなり多く、全国と比較してもあまり差はない。しかし、そういう経験がないと回答している割合が僅かずつではあるが年々増加している。また、集団で達成感、成就感を味わった経験があると回答した生徒の割合が、全国よりも低い。行事等を通じて、みんなで協力してやり遂げるうれしさを味わわせたい。

・本校が取り組んでいる対人スキルアップ授業の成果もあってか、自分のよいところに気づいている生徒の割合は高い。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取組)

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 授業のはじめに「めあて」を明確にし授業に取り組む。また、授業の終わりに学習活動を振り返る活動を行う。
- 授業の中で数学の過去問を活用して、基礎的な計算力の向上を図る(3年)
- 漢字練習や語句の意味調べを、単元終了ごとに実施する。(2・3年)また、毎週はじめに漢字ワークを提出させる。(1年)
- 数学ミニドリルを毎時間後課題とし、次時で確認する。(3年)
- 英単語や動詞の活用を冬休みや春休みの課題にして覚えさせ、休み明けに課題テストを実施する。(全学年)
- ワークやワークシートを使って、英単語等を書かせる課題に毎時間取り組ませる。(1年)
- 「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用して、教科ごとの学習の仕方を学ばせる。(1年)
- 定期考査前に質問教室を実施する。(全学年)
- 朝自習の時間と学活を活用して、コンクール形式で基礎学力の向上を図る取組をする。(2学期・全学年)
- 学力向上に関する職員会議・研修を定期的実施する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 生活ノートや生活アンケート、教育相談を活用して生活習慣や学習習慣について生徒にアドバイスし、改善・安定を促す。
- 学校通信や保健だより、学年・学級通信等のプリント、および懇談会などの様々な機会を活用して、生活時間を安定させることや朝食をとることの重要性について啓発し、学校・担任と保護者との連携・協力体制を整える。
- 定期考査前に生徒に学習計画を立てさせ、計画的に学習に取り組む意識を育てる。
- 「家庭学習チャレンジハンドブック」の内容を保護者にも示し、生徒が家庭学習に取り組みやすい環境作りを学校と一緒に考えていく。
- 小中合同研修会(夏休みに実施)での講話や分散会での協議を参考にしながら、授業内での対人スキルアッププログラムの活用などに取り組んでいく。